

第114回 県病ふれあいコンサート
**弘前大学医学部管弦楽団による
クリスマスコンサート**

2025年12月22日(月) 18:45～

青森県立中央病院 外来ホール

出演 弘前大学医学部管弦楽団

指揮：馬場正之（青森県立中央病院 医療顧問）



プログラム

1. クリスマスキャロル・メドレー その1

天には栄え - 神の御子, 今宵しも - 荒野の果てに - 諸人こぞりて

2. コレルリ：クリスマス協奏曲

3. クリスマスキャロル・メドレー その2

聖夜 - ひいらぎ飾ろう - 神の子イエス - 天なる神には - 陽気なサンタのおじいさん - もみの木 - ジングルベル

4. バッハ：主よ、人の望みの喜びよ

弘前大学医学部管弦楽団について

音楽顧問・指揮者 馬場正之

弘前大学医学部管弦楽団は弘大医学部創立 50 周年の 1994 年に結成された室内オーケストラです。その折の記念式典で医学部職員と学生によるバッハ管弦楽組曲の祝賀演奏が参列した文部科学省事務次官などの関係者に感銘を与えたことから、医学部長や関係教官のご尽力の結果、学生と教職員による当楽団が正式に立ち上げられ、当時の耳鼻科教授でヴァイオリン奏者の新川秀一先生をリーダー兼顧問、弘大病院神経内科医長の馬場を常任指揮者として活動を開始しました。主たる演奏の場は弘大病院での四季おりおりの院内コンサート、弘大大学祭コンサート、解剖体慰霊祭および医学部関連学会の懇親会ミニコンサートなどです。あれから 30 年余り、その間に新川教授が退職され、馬場が県立中央病院に移動した後も当管弦楽団は活発な活動を続け、今日まで沢山の医学部学生たちが音楽づくりの楽しみを身につけた医療者として巣立ちました。大半の学生は医学部入学後に初めて楽器を手にした初心者ですが、様々な楽器を担う一人ひとりがお互いの音を確認めあいながら、積極的に合奏に加わることによってまとまった響きを形作るように練習を続けています。患者様たちの様々な訴えに耳を傾け、種々の職種がチームとして働く医療の現場は、実はオーケストラ活動にそっくりなのです。

これまで取り上げてきた曲は、ブランデンブルクや協奏曲や管弦楽組曲、ヴァイオリン・コンチェルトなど多数のバッハ作品、パッヘルベル、ヘンデル、コレルリ、ヴィヴァルディなどの広範なバロック管弦楽作品、そしてハイドンやモーツァルトのセレナーデや交響曲などです。今夕の演奏には、この春入学後に初めて楽器を手にした新生たちが合奏に加わります。医学部学生に課せられる勉学は大層厳しいものです。その合間をぬって、今夜に向けて一生懸命練習してきた学生たちに拍手を！

指揮者：馬場正之略歴 1973 年弘大医学部卒。多田逸郎氏(リコーダー)、吉田雅夫(フルート)、堀栄蔵氏(チェンバロ制作者)らに手ほどきを受け、1971 年西谷秀樹氏(弘前中央高校教員; チェロ)らと弘前室内楽集団を結成し、多くのコンサートで演奏。79 年渡英、英国神経内科専門医資格を取得後 1980 年よりロンドン大学クィーンスクエア脳神経病院助教授として勤務の傍ら、ロンドン市立ギルドホール芸大で N.ハッデン、J.ソラム、W.バークマン氏らにバロック・古典室内楽を師事。87 年弘大助教授として脳神経内科学を講じるとともに教育学部音楽科今井民子教授と共に教養部で古典音楽演奏論を開講。85 年弘前バッハアンサンブル創設に参加し、東京カザルスホール・紀尾井ホール・朝日ホール等で毎年演奏、雑誌「音楽の友」で「懐の深いフルート」と評されたほか、パリ、ウィーン、ライプチヒ、ニューヨークなど欧米各地でバッハのミサ曲やカンタータのソロフルートとリコーダーを担当。94 年より弘大医学部管弦楽団を指揮し、ヴィヴァルディやコレルリ、バッハやヘンデルなどのバロック音楽から、ハイドン、モーツァルトの古典音楽を中心に演奏活動を続けている。本職では 2007 年脳神経内科部長として県病に赴任、2014 年より医療顧問。日本臨床神経生理学会最高賞名誉会員、糖尿病合併症学会名誉会員、英国王立医学会終身フェローなどの役職を務める。

